



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN
佐土原ロータリークラブ週報

ロータリー財団月間

第716回 平成13年11月14日(水)



[本日のプログラム]

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 点 | 鐘 |
| 2. ロータリー ソング
「手に手つないで」 | |
| 3. 食 | 事 |
| 4. 会長の時 | 間 |
| 5. 幹事 報告 | |
| 6. 委員会 報告 | |
| 7. 会員卓話
・ 梶田與之助君 | |
| 8. 点 | 鐘 |

次回予告
★11月21日(水)
クラブ協議会

★11月28日(水)
ゲスト卓話

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日(12:30~13:30)	会長	吉田康一郎
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	宮原 建樹
事務局	宮崎郡佐土原町大字下那珂3887-17 ☎880-0212	幹事	岩下 廣美
	TEL及びFAX 0985-73-7170	会計	垂水 敏雄
		会報委員長	池田 仁志

第715回例会記録

(2001.11.7)

☆会長の時間

会長 吉田 康一郎 君

皆様今日は。

本日は第715回の例会でございます。

先週の職場訪問、月末でお忙しい中、多数のご参加、大変お疲れさまでございました。

中々、普段は経験出来ない内容の講習をお陰様で受講でき、私もイザ！という時、少なからず救助の手助けが出来るのではないかと思い、大変勉強になりました。

こここの堀北救命救急士から、お話をありましたように我々の年代は倒れている人は動かしたらいけない、触らない方がいいのではないか、との思いでなかなか救命の機会も無いのですけど、これからは自信(?)を持って人助けの行動(安全な廻等への移動、救命蘇生法)ができるのではないかと思います。有り難う御座いました。

今月はロータリー財団月間になっております。濱田ロータリー財団委員長が活動方針として述べております、ロータリー財団の使命は国際規模の人道的、教育的、文化的交流プログラムを通じて、世界理解と平和を達成しようとする、国際ロータリーの努力を支援することである、と記されているように、ロータリークラブの一番の要は財団ではないかと思われる所以あります。

本年度、クラブ運営の基本方針に第2番目に掲げております、ロータリー財団への理解と協力を改めて会員一人一人が

分かってもらい、ポール・ハリスフェローやベネファクターに対して、協力して頂きたいと思います。

地区大会(24~25日)のプログラムが11月号のガバナーマンスリーレターの5頁~7頁に記載されております。

御出席の方はよろしくお願ひ致します。それから、頁16にガバナー公式訪問終了報告の佐土原RC分が載っておりますので、こちらも読んで頂くようお願ひします。

10月度の普通乗用車の月販台数の順位が出ておりますので、参考までに、

1位	トヨタ カローラ	18,934台
2位	ホンダ フィット	16,203台
3位	トヨタ ウィッシュ	10,174台
4位	トヨタ エスティマ	9,929台
5位	ホンダ ステップワゴン	7,318台
6位	トヨタ クラウン	7,079台
7位	トヨタ イプサム	6,401台
8位	ホンダ ストリーム	5,984台
9位	トヨタ ファンカーゴ	5,718台
10位	トヨタ マークII	5,213台

☆幹事報告

幹事代理 田村勝二君

例会場変更通知

都城RC

都城北RC

都城西RC

11月21日(水)より、

ホテル中山荘に変更

次回は夜間例会です。
場所は当石崎浜荘ですので、よろしくお願ひ致します。

☆出席報告

委員長代理 田村勝二君

会 員 数	29名
例 会 出 席 者	21名
出 席 率	72%
メークアップ者数	3名
修 正 出 席 率	83%
欠 席 者 名	太田、神宮寺、赤木、宮本、米澤、

☆会計より

会計 垂水敏雄君

前年度の会計を後藤明夫会員から引継ぎまして、ハッピーボックスを集計しましたところ、36,721円の寄付金収入がありました。

アフガニスタン難民救援募金、1人当たり¥1,000が来ておりましたので、この中の一部¥29,000を支出することに全会員の承認を得ましたので、そのように事務処理させて頂きます。

☆社会奉仕委員会

委員長 中武幹雄君

社会奉仕賞の贈呈について

今年度も社会奉仕賞贈呈の時期になりました。今月末までに皆様方に適当な人の推薦をお願いしたいと思います。

その推薦頂いた中で皆様におはかりし、決定したいと思います。

☆情報委員会

委員長 林厚雄君

ロータリー用語の解説

シニア・アクティブ会員

『シニア・アクティブ』というのは多年にわたる奉仕をロータリーに尽くした会員に確保しておく会員資格の一つの形式で、通常ロータリーの荣誉の標章です。

シニア・アクティブ会員であるという事はロータリアンが長期にわたってクラブ活動に従事して来たという事を意味するものです。

ロータリアンが一つ又は一つ以上のクラブで15年間の奉仕を完了すると自動的に『シニア・アクティブ』となります。

シニア・アクティブの地位は10年以上の奉仕をしたロータリアンで年齢が60歳に達した人にも授与されます。

地区ガバナーを努めたロータリアンは自動的にシニア・アクティブ会員となります。シニア・アクティブになると受けられる恩典の一つは、シニア・アクティブ会員が他の都市に引っ越した場合、未充填の職業分類がなくてもロータリーに出来るよう招請されることが出来るという点です。

ロータリアンがシニア・アクティブになった時点で、このロータリアンの職業分類は解放され、別の個人が参加できるようになります。

シニア・アクティブというのは職業分類ではなく会員資格の一つの型であるということを覚えておくことが重要です。シニア・アクティブ会員はいつも「もとの職業分類」で確認されます。

当クラブでは、山藤忍君、田村勝二君、垂水敏雄君、濱田松太郎君、神宮寺利夫君です。

☆ロータリーの創始

垂水敏雄君

1891年（明治24年）6月、米国のアイオワ州立大学法学部卒業生の中に、将来ロータリーの創始者となるポールP.ハリス（Paul P. Harris）がいました。

[※以下 ポール・ハリスで表記]

弁護士の資格を取得したポール・ハリスでしたが、同大学先輩の助言に従って、卒業後5年間は定職に就かずに世界各地を周り、いろいろな職業を体験してみようと考えました。

アメリカ国内はもとより、イギリスやヨーロッパを転々とし、新聞記者、果樹園労働者、舞台俳優、貨物船員、大理石販売社員などの職業を遍歴しました。

彼がこの時に知り合った友人が、後日ロータリークラブを広める際に大きな力となってくれたのでした。

このようにして5年を過ぎた1896年にポール・ハリスはシカゴ市に居を定め、弁護士事務所を開業しました。

ところが、その頃のシカゴ市は金融恐慌と経済不況のため人々の心は荒れすさま、不法行為が横行し、また実業界も最悪の混乱時代で、金儲けや成功のために詐欺も辞さないという風潮が蔓延していました。

当然ポール・ハリスの事務所も開店休業の状態が続き、気分転換のため街路や公園などを徘徊しても一人の知人にも会うことができませんでした。

シカゴ市で一旗揚げしようと意気込んで来たポール・ハリスは、失意と孤独の日々を送る所以でした。彼の人生で最も落ち込んだ時期であったのではないかと思われます。

しかし、ここでポール・ハリスは非凡な能力を発揮するのです。

先ず、人と人の心が通わなくなっている世の中をどうすれば立て直すことができるかを彼の立場から考えました。

『それには、自分と同様な境遇に在り、同じような目標を持つ青年実業家たちとの仲間づくりを進めるのが第一である。

さらに、同業種間の摩擦を避けるため、一つの業種から一人の会員を原則とする親睦と職業上の相互扶助を目的とするクラブ設立にまで発展させてはどうであろう。』

1905年2月23日ポール・ハリス

は、最も信頼のおける次の3名の友人、

★シルベスター・シール（石炭商）

★ハイラム・ショーレ（洋服商）

★ガスターバス・ローア（鉱山技師）

とガスター・バス・ローアの事務所に集まり、上記のクラブ設立について協議しました。これが第1回の会合で、この日をロータリーの創立記念日としています。

ロータリーの名称は、会員が持ち回りで順番に各自の事務所で例会を開催したことから名付けられました。

創立期のロータリークラブは、会員の親睦と職業上の相互扶助が目的でありましたので、入会した会員は特別割引価格で取引きできるなどのメリットがありました。『仲良しクラブ』の域を脱しないままでは将来への発展が望まれないと意見が徐々に台頭し、シェルドンがシカゴクラブに入会してから、ロータリーの奉仕の理念が導入確立することになります。